令和元年度　第２回広島県地域年金事業運営調整会議　議事要旨

開催日時：令和２年２月 19 日（水）　15：00～17：00
開催場所：メルパルク広島　安芸の間
出席者　：委員８名（欠席者５名）
　　日本年金機構 13 名

１．開　会
２．挨　拶　　日本年金機構広島県代表年金事務所長
３．委員紹介
４．議　事
５．挨　拶　　日本年金機構本部中国地域部長
６．閉　会

■議題１　令和元年度広島県地域年金展開事業　事業計画及び実施状況

○資料２　令和元年度第2回　広島県地域年金事業運営調整会議

【事務局】
今年度のテーマを「若年層に向けた情報発信の強化」とし、取組内容として、「市町での成人祭・成人式の活用」及び「年金セミナーの充実」をあげた。
まず、「市町での成人祭の活用」として、広島市成人祭に広島東・広島西・広島南の 3 事務所合同で広島市保険年金課様と連携しブースを出展。他にも、広島県内の 4 市 5 町の成人式で国民年金広報チラシを配付。20 歳はまさに国民年金のスタートであり、そのタイミングでの広報活動により、一定の啓発効果があったものと考えている。広島県内全体で来年度以降も各自治体へのアプローチを積極的に行い、ブース出展やチラシ配布等広報活動の実施機会を拡大していきたい。
つぎに「年金セミナーの充実」について、学生・生徒などの若年層により強く訴求し、充実した内容の年金セミナーとするため、セミナー講師の更なるスキルアップに取り組んだ。各学校で年金セミナーを実施するのは各年金事務所の職員である。各年金事務所は、年金セミナーPT を設置し、より分かりやすい資料の作成や講師担当者のプレゼンスキルの向上を図っている。加えて、機構組織全体の取組として、年金セミナーをより質の高いものとすべく、説明資料や説明方法の改善及び講師担当職員のプレゼンスキル向上などを目的として実「年金セミナー王決定戦及び年金セミナー担当者会議」がある。今年度は 9 月 13 日に「中国地域予選会」を行い、その優勝者が 10 月にセミナー王決定戦の本

戦と担当者会議に出席。また、12 月に広島南年金事務所において各年金事務所の年金セミナー講師を集め、フィードバック研修を実施。その研修で、本戦のセミナープレゼンの動画を見たり、講師同士で討議を行ったりすることで、プレゼン手法の共有をし、セミナー講師の全体的なスキルアップを図ることができた。

地域連携事業の実施結果については、年金制度説明会の実施回数が昨年度 1 年間の実績を今年度は 1 月までの 10 か月で上回り、より多くの方に制度周知することができた。実績が上がった要因は、雇用保険受給者説明会や国税当局、税務署の年末調整説明会において年金制度説明の機会をいただけたことが大きいと考えている。

■委員からの意見・要望・質問

◆南部委員（広島市）

若年層にむけた情報発信をテーマにあげ取り組まれているが、そもそも若年層にむけたねらい・コンセプトを教えてほしい。

【事務局】

まずは年金のスタート地点である 20 歳をむかえる大学生、専門学校生、まもなく 20 歳をむかえる高校生をターゲットにした。さらに、中学生・小学生にも広げていかなければいけないと考えている。また、若い世代にとって年金は将来歳をとってからもらうものと関心が薄くなりがちであり、正しく年金制度を伝える機会が必要と考えた。

◆南部委員（広島市）

年金制度に関わる年代は幅広く、年代別に応じた対策・取り組みが大切だと思う。広島市は国民健康保険を担っており、その保険料の収納率対策として特に若年層へ口座振替への勧奨に力を入れている。若者に向けたというところに共通している。

【事務局】

国民年金の収納率対策として口座振替の前納制度やクレジットカード払いへの勧奨に取り組んでいる。

◆中田委員（全国健康保険協会広島支部）

年金制度説明会の対象となる人数（分母）・規模を教えてほしい。

【事務局】

説明会によって対象、集まる人数が異なるため規模をお示しするのは難しい。

◆井上委員（広島県社会保険協会）

年金セミナー講師のスキルアップの取り組みについて、フィードバック後その講師が何回セミナーを実施するのか。フィードバックを受けた講師が異動することはないのか。

【事務局】

各事務所によって実施回数が異なり測りきれていない。異動したとしても異動先でセミナー担当者として携わっている。

また、フィードバック研修内で魅力的と感じた言い回しを実際にセミナーで活用したとの報告も受けている。

【事務局】

本年度の主要な４つの取組について報告。

（１）広島市成人祭での特設ブース出展については、20 歳の成人に少しでも年金について興味をもっていただきたいと、昨年の反省点も踏まえ進めた。若手職員中心の PT 内で企画し、年金に関するミニクイズを実施、今年は回答に使用するシールを男女で色分けし、結果を見えやすくした。また、学生納付特例制度についての漫画をパネルで紹介。

（２）就職まるごと相談＆会社紹介フェア in えたじまでの年金相談について、14 の相談コーナーの中に年金相談ブースを設置、5 件の相談があった。あわせてねんきんネットや予約相談についても紹介。

（３） 税金展における年金相談について、商業施設内で年金相談ブースを設置、4 名の相談があった。今後も継続していきたい。

（４）地元ケーブルテレビの取材による広報について、実際の高等学校での年金セミナー風景とその受講した学生の感想を放送してもらい、地元住民にも年金セミナーについて知ってもらう機会を設けることができた。

■委員からの意見・要望・質問

◆中野委員（広島県社会保険労務士会）

お笑い芸人がユーチューブで年金についての動画を配信したことがあり反響もあった。セミナー王の取り組み等動画を WEB や SNS 等で配信できることができれば一番訴えることができるのではないかと思う。

【事務局】

ユーチューブ等の活用については本部へ働きかけをしていきたい

◆鈴山委員（広島県社会保険委員会連合会）

フェアや税金展における年金相談の相談者の年齢構成について教えてほしい

【事務局】

税金展では 40 代の方で、将来年金を受ける際の手続き等についての相談だった。

◆鈴山委員（広島県社会保険委員会連合会）

保護者対象の年金セミナーについて実施できなかったとの報告だったが、公民や現代社会の授業時間に年金セミナーを実施することで学生だけでなく教職員への制度周知につながっていくのではないかと思う。

【事務局】

教職員へむけた制度周知は重要だと思っている。また、高等学校においては令和４年度から「公共」という科目が導入されると聞いており、その中で年金セミナーを活用していただきたいと考えている。

◆宮野委員代理（広島県教育委員会）

進路指導の教員を対象とした研修会・会議の中で年金制度説明の機会が出来ればと思う。

◆伊藤委員長

何かと組み合わせる方が関心をさらにひくのではないか、ファイナンシャルプランナー・ライフプランナーなどとコラボして、若い方や退職前世代と対象者を絞ったうえで実践的な内容で説明会を実施することも検討していただきたい。

【事務局】

「これまでの会議で出た意見及び課題への対応」について説明。

（１）特別支援学校での教職員や保護者への年金セミナーの実施、自営業者等の職業団体への年金制度説明会の実施について、お客様の年金権の確保のために必要であり重要な取組であると考え、実施をしていきたいと考えているが、今年度は実施できていない。引き続き、各団体等へアプローチし、実施していきたい。

（２）職域型年金委員または地域型年金委員の役割について、現在の課題および機構の活動支援の状況を報告。今後、機構本部とも連携し、年金委員の皆様への情報発信や研修会・連絡会の回数を増やしたり、年金事務所とのコミュニケーションを厚くする方法や年金委員のニーズにあった情報提供の方法を考えたり、年金委員活動が充実するための支援を行っていきたい。

■議題２　令和２年度広島県地域年金展開事業　事業計画

○資料２　令和元年度第2回　広島県地域年金事業運営調整会議

【事務局】

現時点での広島県における３つの取組の方針を説明。

（１）年金委員の委嘱拡大について、令和３年度末における増加目標の達成にむけさらに力を入れて取り組む。地域型年金委員は民生委員、児童委員や自治会長、新年度には社会保険労務士会や行政評価局の行政相談委員にアプローチをしていくことを考えている。また、「年金委員活動の充実」という課題への取組も並行して進めてまいりたい。

（２）「広報活動の強化」について、特にねんきんネットの更なる利用を推進していきたい。ねんきんネットは年々機能を改善強化しており、いつでもどこでも無料で利用いただける便利な機能の利用促進を図っていく。

（３）「若年層に向けた情報発信の強化」について、セミナー講師の更なるスキルアップ及びセミナー内容の更なる充実を図りつつ、年金セミナー実施校の拡大、地域年金推進員の確保、そして保護者を対象とした年金セミナーの開催に取り組み、お客様の年金権の確保につなげていきたい。

■委員からの意見・要望・質問

◆鈴山委員（広島県社会保険委員会連合会）
　職域型年金委員が減少傾向にある要因を教えてほしい。

【事務局】
　職域型年金委員の任期はないが、委員の異動や退職時に後任者を推薦いただくことが減少したり、新規設立の会社へのアプローチができていなかったりすることが要因としてあげられる。

◆鈴山委員（広島県社会保険委員会連合会）
　職域型年金委員を増やすにはどうするのか。

【事務局】
　現在被保険者数が 50 人以上の事業所に手紙を送付したところ、一定数の反響をいただいている。

◆鈴山委員（広島県社会保険委員会連合会）
　健康保険委員も減っているのか。

◆中田委員（全国健康保険協会広島支部）
　健康保険委員はむしろ増えている。健康保険委員の委嘱拡大の取り組みは全国的に苦慮しているが、委嘱を増やしている支部の取り組みとしては文書送付後に後追いの電話をしている。マンパワーが成果をあげているようだ。

【事務局】
　健康保険委員の方が人数が多い、協会けんぽ様の協力をいただきながらアプローチしていきたいと考えている。

◆委員長
　地域型年金委員については分母を小学校区数と設定されているのでわかりやすいが、職域型年金委員については特に地域別にどういった分母があるのか、どこをターゲットにするのか分かりにくく、総数だけ議論している傾向にある。具体的に行動するためには分母・ターゲットが重要になってくる。

◆中野委員（広島県社会保険労務士会）
　地域年金推進員について、教職員のＯＢの方だけでなく、短期間であるも

のの複数の学校等で活躍されている非常勤教職員はどうか、教育委員会ではどのように把握されているのか。

◆宮野委員代理（広島県教育委員会）

有資格者が個々に登録している、一斉に非常勤教職員に周知する方法はない。

【事務局】

教職員ＯＢの方だけでなく、非常勤教職員の方など役割を担っていただける方がいらっしゃれば地域年金推進員をお願いしたいと思う。